

報道関係者各位

株式会社タクマ
株式会社竹中工務店

タクマビル新館(研修センター)が竣工

＝ 西日本初の燃エンウッド2時間耐火集成木材を適用した木造ハイブリッド免震建築 ＝

株式会社タクマ(代表取締役社長:南條博昭、以下 タクマ)が本社社屋で実施している各種プラントの遠隔監視・運転支援機能(Solution Lab)の更なる拡充および、社員の育成・能力開発の充実に目的に建設を進めていたタクマビル新館(研修センター)が、株式会社竹中工務店(代表取締役社長:佐々木正人、以下 竹中工務店)の設計施工により10月19日に竣工しました。

建物名称:タクマビル新館(研修センター)

所在地:兵庫県尼崎市金楽寺町2丁目2番33号(本社敷地内)

延床面積:3,334.35m²

設計施工:株式会社竹中工務店

備考:「平成30年度サステナブル建築物等先導事業(木造先導型):国土交通省」に採択



池に浮かぶタクマビル新館



木のあらかし技術を採用したオフィス空間

本施設は、免震構造と西日本で初採用となる竹中工務店が開発した2時間耐火集成木材の燃エンウッド®の他、CLT(Cross Laminated Timber:直交集成材)耐震壁+鉄骨ハイブリッド構造を組み合わせた6階建ての木造ハイブリッド免震建築です。接道側に配した燃エンウッドと外装ダブルスキンカーテンウォールのマリオンに採用した集成材が、建物外観で木造建築をアピールしています。建物内部では、燃エンウッドとCLT耐震壁のあらかし利用のほか、積極的に内装仕上げに木材を利用し、木の温もりに囲まれた落ち着いた職場環境の創出を実現しました。(詳細については、別紙「木造ハイブリッド建築技術の概要」を参照)

サステナブルな拠点づくりが求められている昨今、タクマグループではSolution Labや人材開発施設の拡充に係る新拠点の整備に際して、再生可能エネルギー分野とつながりが深く、林業の持続可能な成長に貢献できる木造建築を採用し建設しました。また、通常はオフィスとして使用しますが、災害時には防災拠点としての機能を活用することで、地域のレジリエンス向上にも貢献します。

本施設を通じて、プラントの遠隔監視・運転支援や人材の能力開発に加え、グループ内外の人々による活発な議論や自由な発想を促進する場を構築することで、お客様や社会の課題を解決する新たな技術やサービスの創造を目指します。

これからもタクマグループは、再生可能エネルギーの活用と環境保全の分野を中心に、リーディングカンパニーとして価値のある製品やサービスのご提供を通じ、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

<報道関係者お問合せ先>

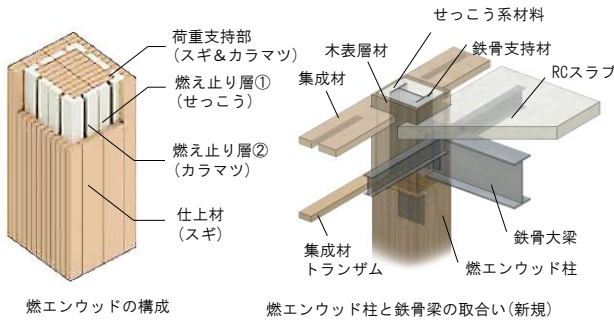
株式会社タクマ 企画部 TEL:06-6483-2602
株式会社竹中工務店 広報部 TEL:06-6263-5605

木造ハイブリッド建築技術の概要

■西日本初 燃エンウッド柱(2時間耐火)

防・耐火 作り易い 美

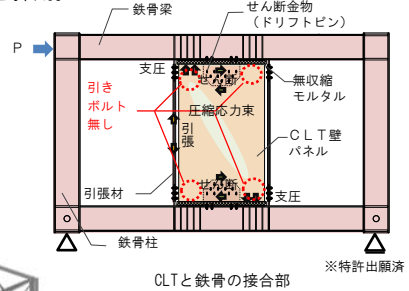
- ・鉄骨梁で大スパンを実現し、長期軸力を燃エンウッド柱で支持。
- ・2時間耐火燃エンウッド柱を採用。
- ・心材はスギとカラマツ、外部被覆材はスギを使用。
- ・仕口部にせっこう系材料を充填し、耐火性能を確保。



■あらかしCLT耐震壁+鉄骨ハイブリッド構造

防・耐火 作り易い 強度/軽量

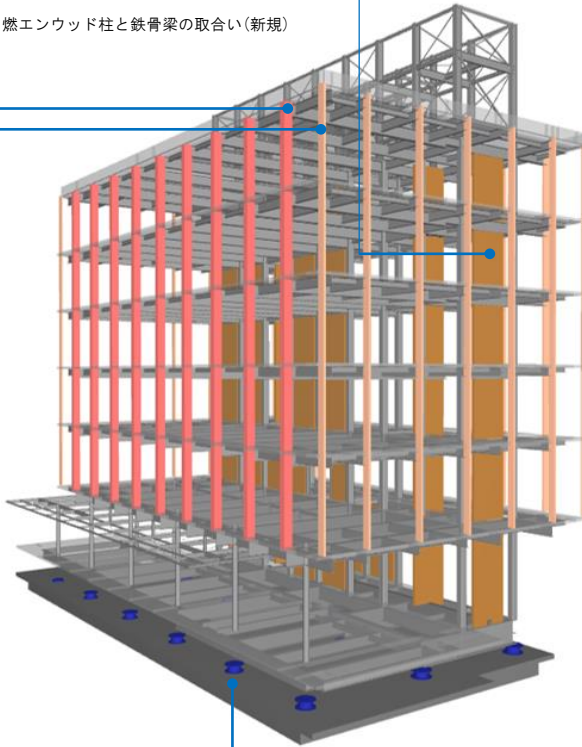
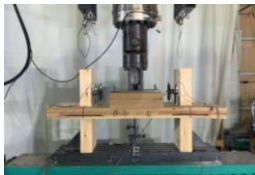
- ・1時間耐火で実績のあるCLT+鉄骨ハイブリッド構造を2時間耐火まで拡張し、初適用する。
- ・鉄骨で拘束されたCLT耐震壁が構造性能を最大限発揮。
- ・鉄骨架構で長期荷重を負担しCLT耐震壁をあらかしとする。
- ・より簡易化された接合ディテールを開発し初適用する。
- ・耐火実験を実施し2時間耐火性能を確認。
- ・CLT(S90)を採用。



■木造耐風マリオン

強度/軽量 美

- ・カーテンウォールの風圧を受けるマリオン、横棧に集成材を用い、木質部材の適用範囲を拡大する。



■耐火木造ハイブリッド構造×基礎免震

強度/軽量 作り易い

- ・耐震安全性と設計自由度を大幅に高める免震構造を採用。
- ・免震装置と上部の木質ハイブリッド構造をダイレクトにつなぐ竹中工務店独自の「スマート免震柱脚」を採用。



■木を活かした省人化・省力化への取組み

作り易い

- ・木の軽さや加工性を施工性向上に活かすため、上部構造のスラブ以外の鉄筋コンクリート工事を最少化し、木造部材を含めたほぼ全ての構造部材をプレファブ化して、作業所における構造躯体工の省人化・省力化を図る。

■木質あらかし仕上

防・耐火 美

- ・PR効果のある来客エリアを中心に木仕上げを利用
- ・外観、内観とも積極的に木の表情をみせる。

■木質×ガラス・池によるアピール効果

美

- ・環境に配慮し、池に囲まれた木造建築を建てることでPR効果と認知度の向上を目指す。

